

公益財団法人痛風財団  
平成24年度事業報告書

平成24年度は下記事業を行った。

1. 研究助成事業

平成24年度研究助成は51件の申請に対し下記4部門合計600万円の支援を行った。

- ① 痛風・高尿酸血症に関する臨床的色彩の濃い研究を対象とした「鳥居痛風学術賞」
- ② 痛風・高尿酸血症の関する基礎的色彩の濃い研究を対象とした「田辺三菱賞」
- ③ 痛風・高尿酸血症に関する一般的研究を対象とした「研究助成」
- ④ 国内学術誌に発表された痛風・高尿酸血症に関する優秀論文を対象とした「優秀論文賞」

- ① 鳥居痛風学術賞 1名 助成金額100万円

市田 公美（東京薬科大学薬学部病態生理学教室教授）

研究テーマ：ABC G2機能低下による高尿酸血症のメカニズムの解析

—腎外排泄低下型高尿酸血症の提唱—

- ② 田辺三菱賞 1名 助成金額100万円

金子 希代子（帝京大学薬学部教授）

研究テーマ：プリン体測定とプリン体プロファイリングによる痛風・高尿酸血症の食事療法への応用

- ③ 研究助成 10名 助成総額300万円

1. 谷口 敦夫（東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター教授）

研究テーマ：日本人の痛風発症における尿酸トランスポーター遺伝子以外の遺伝要因の検討

2. 細山田 真（帝京大学薬学部人体機能形態学研究室教授）

研究テーマ：尿酸トランスポーターURAT1の脳内局在の解明

3. 森崎 隆幸（国立循環器病研究センター研究所部長）

研究テーマ：蛋白尿を示すAMPD2欠損マウスのヌクレオチド代謝と糸球体機能に関する検討

4. 松尾 洋孝（防衛医科大学校分子生体制御学講座講師）

研究テーマ：痛風の新規原因遺伝子の探索と臨床遺伝学的解析（継続）

5. 山内 高弘（福井大学医学部内科学(1)講師）

- 研究テーマ：新規尿酸降下薬の PK/PD 理論に基づく腫瘍融解症候群のリスク別治療指針の確立（継続）
6. 久保田 優（奈良女子大学生生活環境学部教授）  
研究テーマ：小児科領域における痛風患者の頻度とその病態の調査
7. 白藤 尚毅（帝京大学医学部内科教授）  
研究テーマ：高尿酸血症を認めたMD S 症例に関する分子生物学的解析
8. 荻野 和秀（鳥取大学医学部附属病院卒後臨床研修センター准教授）  
研究テーマ：拡張不全による心不全に対するキサンチンオキシダーゼ阻害の効果
9. 中村 真希子（東京薬科大学薬学部病態生理学教室助教）  
研究テーマ：蛍光タンパク質プローブを用いた尿酸輸送評価法の開発
10. 高田 龍平（東京大学医学部附属病院薬剤部講師）  
研究テーマ：尿酸排出トランスポーターを介した尿酸の腸管排泄に関する研究

③ 優秀論文賞 2 名 助成金額 1 0 0 万円

1. 安西 尚彦（獨協医科大学医学部薬理学主任教授）  
発表テーマ：新規ヒト有機酸排出トランスポーター hNPT4 (*SLC17A3*) の輸送特性
2. 大田 祐子（国立循環器病研究センター高血圧・腎臓科）  
発表テーマ：高血圧患者における高尿酸血症の病型分類：簡便法の有用性について

1. 研修会開催・痛風協力医療機関推薦事業

① 第 2 3 回医師対象痛風研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象に、今年度で 2 3 回目を迎えた痛風研修会を平成 2 4 年 9 月 9 日（日）東京慈恵会医科大学講堂で開催した。

痛風協力医療機関などへの案内状やインターネット等を通じて聴講者を募り、一般開業医をはじめ医療関係者約 2 0 0 名の参加を得て高尿酸血症の診断及び治療の方法や最新の研究成果についての講義と活発な質疑応答が行われた。

★第 3 部 質疑応答  
回答者

長瀬 満夫 (長瀬クリニック院長)  
浜口 朋也 (兵庫医科大学准教授)  
山内 高弘 (福井大学講師)

尚、平成25年度第24回痛風研修会は9月8日(日)に東京慈恵会医科大学で開催の予定である。

② 痛風協力医療機関推薦

痛風研修会参加の一般医師などに呼びかけ、新たに3機関を推薦した。

この結果、平成25年3月末現在の痛風協力医療機関は全国で合計138機関となった。

新規推薦医療機関は下記の通り。

(A) 新規推薦

1. 医療法人社団はなぶさ会島村記念病院 (巖 琢也 先生)  
練馬区関町北2-4-1  
TEL 03-3928-0071
2. 桑名市総合医療センター (松本 美富士 先生)  
桑名市寿町3-1-1  
TEL 0594-22-1211
3. 医療法人清心会徳山クリニック (徳山 清之 先生)  
浦添市牧港2丁目46番12-102号メディカルプラザ牧港  
TEL 098-942-1001

3. 啓発事業

① インターネットによる啓発

ホームページへのアクセス数は30万件を超え、患者や家族のみならず広く一般関係者に対しても有効な情報伝達手段として定着したと思われる。この為、その内容も更に充実すべく適宜更新しながら痛風・高尿酸血症についての知識や診療機関の情報を掲載して一般各位の便宜に供して居る。

② 一般からの質問への対応

一般患者や家族などからのメールや電話での質問も連日寄せられた。内容は診療機関の紹介依頼が最も多く、その他は発作時の対処方法や食事に関する事などで、これ等の質問に対しては都度財団関係の専門医師等に問い合わせその回答内容を伝えている。

③ 市民公開講座協力

平成25年2月16日(土)に東京新丸ビルに於いて、日本痛

風・核酸代謝学会や製薬会社に協力して痛風に関する市民公開講座を開催。一般参加者約250名であった。

④ 小冊子及び会報による啓発

小冊子「痛風を発症しないために尿酸値を下げる生活」を発行し、全国の協力医療機関等を通じて一般に配布すると共に、平成24年8月と平成25年1月に会報を発行した。

以上